

『公開例会の実施について』

…我孫子北部地域の皆さんへ
公開例会のおしらせ…

AAFCの活動を地元の皆様知っていただくと共に音楽の楽しさ、素晴らしさをPRするため、例会を皆さんに公開例会として開放することを計画しました。

日頃から、つくし野コミュニティホールの運用についてお世話になっている自治会々長の小松様からも要請を受けていましたので早速実施することになりました。

十一月、十二月の例会、特別例会、オペラ鑑賞会などを公開し、興味のある方々に自由に参加していただき会の内容を理解してご入会に至れば会員増にもなります。

十月一日発行第38号の『あびこ 北地区社協だより』に折り込みとして、A4版で裏表には写真、地図入りで印刷したパンフレットを配布していただきました。

配布範囲は常磐線より北側全域で印刷部数は一万二千部、自治会を通じて全家庭に配布されます。

内容については前回の例会で皆様に配布済みで、HPにも掲載されています。
その結果、既に数件の問い合わせの電話がありました。

ただ、残念なことに配布後、選挙や学校の行事などのためホールの使用が出来なくなり久寺家近隣センターに例会会場が変更になったことで会場に掲示するなどの処置が必要になったことです。

会長

『オーディオと私』

幼い頃の記憶。鎌倉市比企ヶ谷の家にはSPレコードが木箱に？枚以上 数箱ありました。竹久夢二の表紙「君よ知るや南の国」「ゴンドラの歌」などの楽譜が大きな机の引き出しに入っていました。

SPレコードの内容は長歌・十三絃・尺八・バイオリン等。 題名を覚えていたのは「黒髪」「六段・千鳥の曲」「鶴の巣籠」「ユーモレスク」。

母が十三絃を弾き父が尺八とバイオリンを弾いていたようです。聞くのはもちろん蓄音機。針は鉄？だったよう。こどもにはあの手回しはけっこう力仕事でした。松井須磨子の「カチューシャの歌」も聞いたような気がします。「ゴンドラの歌」は意味もわからず母と一緒に歌っていました。

お隣のお姉さんが弾くピアノ。指ならしから始まってシヨパン・モーツアルト・ベートーベン・リストをBGMに育ちました。高校生になった頃から毎シーズン東京交響楽団の演奏会に行きました。その頃は還子に住んでいたのですが、帰路には指揮者の上田仁さんや団伊久磨さんとも電車で一緒に帰りましたが私にはただのおじさま方でした。

社会人になってモーツアルト大好き人間と出会いました。そして「フルオーケストラを聴いて楽しい？」と聞かれ…。そこで毎月通い始めたのが「日本モーツアルト協会」の例会でした。その頃は内幸町の「イイノホール」が会場でした。

正会員数はケツヘル番号で打ち切り。代々世襲とかいうことで空きはなく、受付の方が顔見知りだったためフリーパス。

よく出演なさっていた方は小林道夫さん。ある時後ろの席の方が彼のピアノは軽々しいと評していましたが、それを聴いた友人は「それでよいのだ」とも言っていました。私はジャンルは問わずただ聴いていて気持ちよければそれでいい。この姿勢は未だに変わりません。

誰がなんと言おうと奏者と聴き手の個の問題であって他人に押しつけるものではないと思っています。

モーツアルト好きの友人宅では毎週土曜日徹夜でLPを聞きました。主にオペラ。スコアを眺め一緒に歌い？その他色々なジャンル。その頃の音楽体験が今の私でもあるのかもしれません。

結婚のため福岡へ移転。トリオの大きなステレオセットのある家でした。その後転勤のため関東へ移転。引越越し荷物一段落してLPを聴いたら？回転数が違う。六十サイクルと五十サイクルの違いで装置をメーカーへ運び込むはめに。

その後転勤のたびにサイクルが違って我が自作の真空管アンプは出番なし。あきらめて処分したのが三十年前。そんな時代でした。

その後、山水・ケンウッドとセットものを買ったのですが時代はCDが主流。でもなじみず。いよいよ終末期をあと十年として未だ聞いていないLPを聴くために皆さまのお力で再生装置をセットすることに致しました。BGMとして気楽に聞くためです。

この会に入会した動機は中学まで兄のヨットに乗って遊んでいたことを、ある日思い出し、この年で乗れるのはあくセスティンギーと知り手賀沼の「アルバトロスヨットクラブ」へ入会したことです。

ところがADには乗れず、先輩にセーリングヨットのイロハを教えてくださいたいという時期、昼食中にある一団が食堂へ入って来ました。その一団が「AAFC」で、そこにはヨットクラブの先輩もいらしてオーディオの言葉を聞いて耳がダンボ！でもヨットクラブの先輩に「今はヨットだろう」といわれ…。現在はセーリングヨットの体力はないので（日焼けも禁物）クルーザーに変更。

そしてAAFCへ入会させていただいたのでした。日焼け禁物とは私は目下一絃琴を習っていて和服を常用しているからです。この楽器のルーツは定かではありませんが日本独自のものです、その音色にすっかり魅せられてしまったのです。

「人に聴かせるものではなく自分のために演奏するもの」に共感し師事しています。

そのような楽器ですからほとんどの日本人がご存知ありません。楽器の精神性を尊重しつつこの音がどなたかの「心の琴線」に触れることを祈って微力ながら伝統を繋ぐべくPRも…。興味がありでしたらHPをごらんください。

清虚洞一絃琴で検索を。
<http://www.seikyodoichigenkin.com/index.html>

音楽とは「音を楽しむ」。

その楽しみ方は人それぞれ。生まれ育った環境と意識はしていませんが内なる民俗のルーツ。それぞれの楽しみ方があってののだと 例会に出席するたびに痛感します。

知らない世界が沢山あって知る喜びを与えてくださるこの会は私にとつてすばらしい財産です。

みなさまありがとうございます。

藤井 千恵子



現在、「音楽を楽しむ」為に、新たな再生装置の設置に向けて準備中ですが、不在の時間も多く、今暫く時間がかりそう、ここに披露出来なくて申し訳ありません。